



二十三夜祭

8月23日(金)、追分地蔵尊で二十三夜祭が行われました。

安産や子育てを祈願するこの祭は、「おサンヤサマ」とも呼ばれ、毎年8月23日に行われる月待ち信仰です。月待ちというのは、特定の月齢の月の出を拜むことです。

この日、家族でお参りに来た今三小一年生の三沢龍輝くんは、「ウルトラマンに会いたいとお願いしました」と話してくれました。



9月7日(土)・8日(日)に、日光・今市地域で日光ツーデーウォークが開催されました。取材当日の初日は、あいにくの雨でしたが、多くの参加者が集まり、日光の自然や歴史、文化を堪能していました。コース上では、日光子ども歴史探検隊が史跡のガイドをし、観客から拍手喝采を浴びていました。また、ゴール地点では豚汁などが振舞われ、参加者は舌鼓を打っていました。横浜市から参加した山口加代子さんは「初めて参加しましたが、予想以上に良いコースでした。トレイルランニングのコースにも活用できそうですね」と話してくれました。



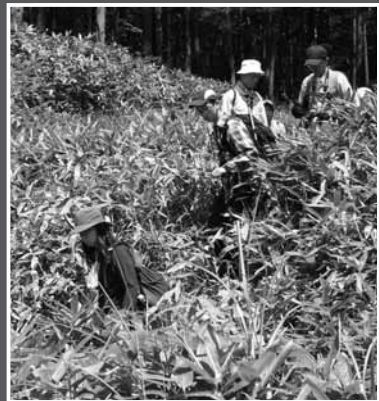
日光ツーデーウォーク

8月11日(日)、御沢溪谷で、日光湯元ビジターセンターが主催する自然観察イベントが行われました。参加者は県内外の18名で、爽やかな青空のもと、ガイドによるさまざまな自然解説を聞きながら、光徳から梵字滝、御沢溪谷を歩きました。「最涼の夏に浸る」をテーマに、奥日光の涼しさの理由や植物が温度を感知する仕組み、アキアカネの避暑の秘密などの解説がされ、参加者たちは興味津々の様子で聞き入っていました。背丈まで繁茂するクマザサの中をかき分けて進んだり、きんと冷えた沢水の中に入ったたり、こけむした溪谷を歩いた様子でした。

今日の表紙 梵字滝・御沢溪谷ハイキング



8月23日(金)・24日(土)、日光山輪王寺新能が行われました。今回で26回目の開催となり、2日間で約950名の来場者がありました。23日は悪天候のため日光総合会館での開催となりましたが、24日は火が焚かれた三仏堂前の特設舞台で行われ、日光の涼風のもとで当代随一の演者による幽玄美の世界に浸りながら多くの来場者が真剣に鑑賞していました。



ふれあい橋夜祭り

8月9日(金)・18日(日)、鬼怒川温泉のふれあい橋で、恒例のビアガーデンなどが開催されました。広い橋の上に設置された特設のビアガーデンでは、多くの観光客たちがビールを片手にしばしの涼を楽しんでいました。茨城県から仲間と訪れた銀柳さんは、「鬼怒川温泉にはたびたび来ていますが、ビアガーデンは初めてです。開放的で最高です」と満足そうでした。



湯西川温泉夏まつり

8月18日(日)・27日(火)、日光四季祭事業として、湯西川温泉夏まつりが、湯西川地区の安らぎの森自然公園で開催されました。取材当日の初日には、湯西川温泉旅館の女将や子どもたちによる着付け舞が披露され、観客はその艶やかな舞に見とれていました。期間中は日替わりで、ギター演奏やケーナ演奏なども行われました。



足尾庁舎・日光消防署 足尾分署開庁記念式典



8月13日(火)、市役所足尾庁舎と日光消防署足尾分署の開庁記念式典が、足尾町通洞の新庁舎で行われました。

新庁舎は、総合支所と公民館の機能を併せ持つ複合的な施設です。これまで使用してきた旧庁舎の老朽化に伴い、足尾銅山観光に隣接する市有地に、日光消防署足尾分署とともに新たに建築されました。

開庁記念式典の前には、郷土芸能の足尾銅太鼓の演奏が行われた他、式典では足尾認定子ども園の園児たちが歌う足尾の伝統歌曲「足尾の四季」のメロディーが、新庁舎内に響き渡りました。

記念式典終了後は、ものまね芸人やアイドルユニットによるステージ、ダンスサークルによるダンスなどが行われた他、夏の恒例行事の足尾納涼祭が開催され、集まった大勢の地元住民や帰省客、観光客などでにぎわいました。



フードタウン日光 工場見学ツアー

8月19日(月)、フードタウン日光工場見学ツアーが行われ、市内の親子26名が参加しました。市内の食品工場4カ所(丸彦製菓、富士食品工業、太子食品工業、ユニオンソース)を見学し、製品の試食や煎餅焼きなどの体験をしながら、日光で造られている食品について、親子で楽しく学びました。



日光山輪王寺新能

8月23日(金)・24日(土)、日光山輪王寺新能が行われました。今回で26回目の開催となり、2日間で約950名の来場者がありました。23日は悪天候のため日光総合会館での開催となりましたが、24日は火が焚かれた三仏堂前の特設舞台で行われ、日光の涼風のもとで当代随一の演者による幽玄美の世界に浸りながら多くの来場者が真剣に鑑賞していました。

